

175

こんにちは。塾長の大井です。

3期生受験戦記39回です。

1月31日。出陣式。

子どもたちからの熱い意気込みを受けて、私たちが最後のエールを贈ります。

まずは田宮のメッセージです。彼らしく原稿を用意していました。

「みんなよく今日まで先生たちを信じて、いや信じぬいてここまでついて来てくれた。それが嬉しかったし、ものすごく誇りに思ってる。逆にみんなと今日まで勉強してこれたことを感謝してる。ありがとう。」

こう切り出した田宮は一人ずつにコメントしていきました。

「A。一番最初に体験授業した時のこと、よく覚えてるよ。あれから3年経った今は・・・、別人だね。別格だよ。とてつもなく成長したと思う。メダル授与式の時も言ったけど、今までの全受験生の中

で最高の努力をした！」

(A、それを言わせたか・・・！！)

私は聞きながら、全身が栗立つのを感じました。

10人20人の話ではありません。10数年教え導いて来た、何百人の切実な教え子たちの中で、最高の努力をした。それは取りも直さず、最高の栄誉ある誉め言葉でした。

「あとは出し切れるかどうかだ。」

そう締めくくって、次に田宮はMさんに目を向けました。

「M。体験の時は分かんないって言ったよね。初めはそんな感じだった。そんなMがあきらめないこと、考えぬくこと、そんな粘り強さをTOPで3年間で身につけた。本当に備わったんだね。

ただ1月入試は答案を見る限り、まだ出し切ってるとは言えない。

それを全て明日の開成に出し切ってほしい。

明日逆風が吹くかもしれない。それでも自分を追い風の中に置く。

その力はもうあるから。」

一点の重み。それがどこよりも重い学校は、やはり開成です。

最後に U さんへ。

「U。最初は本当にただのひらめきだけでやってた。でも今じゃ、昔の U からは考えられないくらい手を動かすようになった。ものすごい成長した。明日はとにかく合格したいって気持ちを全面に出す。U は謙虚すぎるよ。」

確かに、U さんはその日やった面接練習でも終始そわそわして、想いの 3 分の 1 も伝えられていませんでした。

「もっともっとがっついていい！そして・・・。」

田宮は A さんと U さんを交互に見つめました。出逢ったその日からいつも雙葉を誓い合ってきた 2 人です。

「A と U は一緒に雙葉で同級生になる！これ絶対約束な！」

2 人はうなずきました。

「最後に・・・、5 人の想いは絶っっっっ対届くから！！こんなにやり切ったのは初めてかもしれない。明日の答案本当に楽しみにしてるから。先生は悔いはない！全部やり切った！君たちの帰りを、大井先生と TOP で待ってる。」

(次回につづく)

2018年1月15日

大井雄之